

かぼちゃ日本一和寒町の新たな特産品 わっさむペポナッツ

＝株式会社和寒シーズの工場が始動＝

農業者が中心となって平成25年9月に設立された株式会社和寒シーズ（平崎 徹 代表取締役）は、かぼちゃ生産高日本一の和寒ブランドを生かし、生産者の所得向上と地元経済の活性化、雇用機会創出を図ることを目的に和寒産ストライプペポの種子を一次加工し「わっさむペポナッツ」の商品名で全国に向けて販売を始めました。

加工場は用地建物取得費や施設改修、設備導入経費など総額約4,280万円の事業費のうち、町が起業化支援事業補助金として3,000万円を補助し、平成25年12月6日に工場の落成式が執りおこなわれ操業を開始しています。



▲工場でペポカボチャの種子を取っている

＝健康食品としても注目＝



かぼちゃの種子成分には泌尿器系にとっても効能があるとされており、健康食品としても注目されている食品です。しかし、国内ではほとんど生産されておらず、お菓子などに使われているかぼちゃの種子は主に中国産などの輸入品で占められています。

「安全・安心な農作物」を求める消費者の声に答えるために、良質なかぼちゃを生産する和寒町の生産者にとって、国内産ペポカボチャの食用種子の生産に対する注目は非常に高く、大きな期待を寄せてます。

株式会社和寒シーズでは、ペポカボチャのワタや果肉など現在は未利用の部分についても研究し、健康食品等の開発を進めることとしていますし、町も関係機関と連携してペポカボチャの振興を図ることとしています。

＝ストライプペポ産地化に向けて食クラスター連携協議会で共同研究＝

平成24年度からは、北海道の重点プロジェクトである「食クラスター連携事業」の支援を受けて、北海道・上川農業試験場・農業改良普及センター・藤女子大学・町内生産者・わっさむファクトリー・和寒シーズ・JA北ひびき和寒基幹支所・農業活性化センター等を構成員とした食クラスター連携協議会を設置し、産地化に向けた共同研究をおこなっています。



▲農業活性化センターでの検討会議（12月25日）

主な共同研究テーマ

- ①栽培技術試験 ②加工技術の研究 ③食用種子の機能性・栄養性 など



主に、栽植密度（株間、畝間など）の違いによる収穫量の違いや加工技術の研究のほか、機能性・栄養性においては、動物実験による前立腺肥大等からくる頻尿、肝機能改善、血清中性脂肪の抑制効果などを調査・研究中です。

食クラスター連携事業は3年間の事業で、平成26年度はその最終年にあたりますが、今後も、各種関係機関と連携を図りながら、和寒町産ストライプペポの産地化に向けて共同研究を進めていきます。